

平成29年度 事業報告

I 法人の概況

1. 設立年月日 昭和49年2月8日

協会は、昭和49年2月8日に(社)青森県家畜畜産物衛生指導協会として設立。平成15年7月1日に(社)青森県家畜畜産物衛生指導協会を存続法人として、(社)青森県畜産会及び青森県肉用牛協会が再編統合し名称を「(社)青森県畜産協会」に変更した。

平成20年6月1日に青森県草地畜産協会と統合。更に平成22年4月1日に(社)青森県畜産物価格安定基金協会と合併した。

平成25年4月1日に青森県知事から移行認可を得て「一般社団法人青森県畜産協会」に移行した。

2. 定款に定める目的

協会は、畜産経営の安定向上及び安全で良質な畜産物の生産と流通に関する事業を行い、畜産の振興に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 畜産に係る生産の振興及び経営技術の指導に関する事業
- (2) 畜産に係る調査・研究及び情報の収集・提供並びに畜産指導員の教育及び養成に関する事業
- (3) 畜産農家等が組織する団体の運営の指導に関する事業
- (4) 草地基盤や自給飼料に係る調査・指導及び放牧促進に関する事業
- (5) 畜産物に係る普及啓発及び流通・消費拡大に関する事業
- (6) 経営安定のための肥育牛及び肥育豚に係る生産者積立金及び補填金の交付等に関する事業
- (7) 肉用子牛生産安定等特別措置法に基づく肉用子牛生産者補給金の交付等に関する事業
- (8) 家畜の健康保持等に係る技術指導及び予防接種並びに家畜伝染病の発生時における損失補填金の交付等に関する事業
- (9) 農場の生産衛生の指導及び検査並びに畜産物の安全性確保に関する事業
- (10) その他協会の目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項 青森県 農林水産部 畜産課

5. 会員の状況

区 分	年度当初 会員数	29年度		年度末 会員数	備 考
		増	減		
正 会 員	85	0	0	85	
賛助会員	4	0	0	4	
計	89	0	0	89	

6. 主たる事務所 青森市中央二丁目1番15号（畜連ビル2F）

7. 役員に関する事項

(1) 役員の変動

区 分	氏 名	所 属 団 体	年月日
任期満了 退任・会長	渡 部 毅	学識経験者（元十和田湖町長）	H29. 6. 26
任期満了 退任・理事	盛 田 淳 三	(公社) 青森県獣医師会 常務理事	H29. 6. 26
任期満了 退任・理事	竹 内 広 之	青森県農業共済組合連合会 理事	H29. 6. 26
就任・会長	小山田 久	十和田市 市長	H29. 6. 26
就任・理事	小山田 富 弥	(公社) 青森県獣医師会 会長	H29. 6. 26
就任・理事	田 嶋 政 榮	青森県農業共済組合連合会 理事	H29. 6. 26
辞任・理事 (副会長)	井 上 主 税	全国農業協同組合連合会青森県本部 運営委員（青森農協長）	H29. 9. 15
就任・理事	佐々木 福 栄	全国農業協同組合連合会青森県本部 運営委員（八戸農協長）	H29. 12. 15

8. 職員に関する事項

前期末 職員数	増	減	本年度末 職員数	備 考
11	2	4	9	
	小笠原 和弘 工藤 美紀	村田 春菜 山田 育夫 工藤 美紀 新山 藍		(正職員 5名、嘱託 3名、臨時 1名、 非常勤を除く。)

9. 総会及び理事会の開催に関する事項

(1) 第1回理事会

期日場所：平成29年5月26日、アップルパレス青森

〔議決事項〕

第1号議案 平成28年度事業報告及び計算書類の承認について

第2号議案 平成29年度会費及び賛助会費の額並びに徴収方法について

第3号議案 平成29年度借入金限度額及び取引金融機関の承認について

- 第4号議案 平成29年度事業計画及び収支予算の決定について
- 第5号議案 肉用子牛生産者補給金業務規程の一部変更について
- 第6号議案 任期満了に伴う役員候補者について
- 第7号議案 第14回定時総会の開催期日及び提出議案について
- 第8号議案 第2回理事会の開催について

- 〔報告事項〕 (1) 業務の執行状況について
(2) 公益目的支出計画実施報告書について

(2) 第14回定時総会

期日場所：平成29年6月26日、ラ・プラス青い森

〔議決事項〕

- 第1号議案 平成28年度事業報告及び計算書類の承認について
- 第2号議案 平成29年度会費及び賛助会費の額並びに徴収方法について
- 第3号議案 平成29年度事業計画書及び収支予算書の報告について
- 第4号議案 役員改選について

(3) 第2回理事会

期日場所：平成29年6月26日、ラ・プラス青い森

〔議決事項〕

- 第1号議案 会長、副会長及び専務理事の選任について

(4) 第3回理事会

期日場所：平成29年11月16日、アップルパレス青森

理事現在数14名、出席理事8名、出席監事2名

〔議決事項〕

- 第1号議案 予防接種手数料の新設について
- 第2号議案 肉用子牛生産者補給金業務方法書の一部変更について
- 第3号議案 会計規程の一部変更について
- 第4号議案 理事の取引（利益相反）の承認について
- 第5号議案 井上主税副会長の辞任について
- 第6号議案 公益認定手続きの延期について

- 〔報告事項〕 (1) 業務の執行状況について
(2) 牛の検査材料保冷施設の受託管理について
(3) 肉用子牛生産者補給金事業の不正受給に係る差押え債権取立訴訟の状況について

(5) 平成29年度臨時総会（書面表決）

期日場所：平成29年12月15日、(一社)青森県畜産協会

〔議決事項〕

- 第1号議案 役員補欠選任について

(6) 理事会（書面議決）

期日場所：平成30年2月1日

第1号議案 肉用子牛生産者補給金制度の不正受給に係る差押え債権取立訴訟の和解について

(7) 第4回理事会

期日場所：平成30年3月2日、ラ・プラス青い森

〔議決事項〕

第1号議案 平成29年度事業計画書及び収支予算書の変更（補正）について

第2号議案 平成29年度事業計画書及び収支予算書について（暫定）

第3号議案 諸規程の一部変更について

第4号議案 重要な職員（事務局長）の承認について

〔報告事項〕（1）業務の執行状況について

（2）平成29年度青森県公社等経営評価委員会評価結果について

（3）肉用子牛生産者補給金事業の不正受給に係る差押え債権取立訴訟の和解受入について

10. 監査会等の実施状況

(1) 監事会

期日場所：平成29年5月17日、青森県畜産協会 会議室

監査事項：平成28年度会計事務及び業務に関する監査について

(2) 三上公認会計士事務所による会計事務等の調査・指導

- ① 平成29年5月15日、平成28年度決算に係る財務調査・指導について
- ② 平成29年11月24日、平成29年度中間財務調査・指導（前期）について
- ③ 平成30年3月6日、平成29年度中間財務調査・指導（後期）について
- ④ 平成30年3月30日、予防事業ワクチン在庫の現地確認調査（十和田市、八戸市）

11. 基金に関する事項

(1) 預り運営基金（正会員等64団体）

（単位：円）

区分	価格安定			家畜衛生	合計
	肉用子牛	肉豚	(計)		
期首残	259,260,000	178,100,000	437,360,000	37,260,000	474,620,000
増減	0	0	0	0	0
期末残	259,260,000	178,100,000	437,360,000	37,260,000	474,620,000

注：肉用子牛に全国肉用牛振興基金協会からの5,000,000円を含む

(2) 寄託金

(単位：円)

団体名	区分	家畜衛生	備考
地区家畜衛生推進協議会 (5地区)	期首残	34,992,000	
	増	0	
	取崩	△ 4,374,000	
	期末残	30,618,000	

12. 会員名簿

(1) 正会員

H29. 3. 31 現在

No.	会 員 名	No.	会 員 名
1	青 森 県	44	(一社)青森県配合飼料価格安定基金協会
2	青 森 市	45	(一社)青森県養豚協会
3	弘 前 市	46	青森県養鶏協会
4	八 戸 市	47	青森農業協同組合
5	黒 石 市	48	つがるにしきた農業協同組合
6	五所川原市	49	ごしょつがる農業協同組合
7	十和田市	50	つがる弘前農業協同組合
8	三 沢 市	51	津軽みらい農業協同組合
9	む つ 市	52	十和田おいらせ農業協同組合
10	つ が る 市	53	ゆうき青森農業協同組合
11	平 川 市	54	おいらせ農業協同組合
12	平 内 町	55	八戸農業協同組合
13	今 別 町	56	東青畜産農業協同組合
14	外ヶ浜町	57	三戸畜産農業協同組合
15	蓬 田 村	58	五戸畜産農業協同組合
16	鯡ヶ沢町	59	三本木畜産農業協同組合
17	深 浦 町	60	青森県七戸畜産農業協同組合
18	藤 崎 町	61	田名部畜産農業協同組合
19	鶴 田 町	62	大間町畜産農業協同組合
20	中 泊 町	63	斗南丘酪農農業協同組合
21	野 辺 地 町	64	深浦畜産農業協同組合
22	七 戸 町	65	袖平牧野畜産農業協同組合
23	六 戸 町	66	田代牧野畜産農業協同組合
24	横 浜 町	67	深持牧野畜産農業協同組合
25	東 北 町	68	奥瀬牧野畜産農業協同組合
26	おいらせ町	69	法量牧野畜産農業協同組合
27	六ヶ所村	70	東青地区家畜衛生推進協議会
28	大 間 町	71	三八畜産衛生協議会
29	東 通 村	72	上十三地区家畜衛生推進協議会

30	佐井村	73	むつ地区家畜衛生推進協議会
31	三戸町	74	津軽地区家畜衛生推進協議会
32	五戸町	75	(公社)あおもり農林業支援センター
33	田子町	76	中部上北広域事業組合
34	南部町	77	つがる市屏風山畜産組合
35	階上町	78	(農) 和平高原開発農場
36	新郷村	79	(農) 北栄トラクター利用組合
37	青森県農業協同組合中央会	80	(農) 吹越台地飼料生産利用組合
38	全国農業協同組合連合会青森県本部	81	青森シャモロック生産者協会
39	全国共済農業協同組合連合会青森県本部	82	青森県養蜂協会
40	青森県農業共済組合連合会	83	雪印種苗(株)十和田営業所
41	青森県畜産農業協同組合連合会	84	ヤンマーアグリジャパン(株)東日本カンパニー東北営業部青森事務所
42	青森県軽種馬生産農業協同組合	85	みらいのアグリ(株) (北原電牧)
43	(公社)青森県獣医師会		

(2) 賛助会員

No.	会 員 名	No.	会 員 名
1	青森県農業信用基金協会	3	津軽地域馬肉振興協議会
2	青森県動物薬品器材協会	4	サージミヤワキ(株)札幌営業所

13. 役員名簿

H29. 3. 31 現在

役 職	氏 名	区分	所 属 団 体
会 長	小山田 久	非常勤	十 和 田 市 市 長
副 会 長	山 崎 憲 久	非常勤	上十三地区家畜衛生推進協議会 会長
専務理事	菅 慶一郎	常 勤	学 識 経 験 者
理 事	小 又 勉	非常勤	七 戸 町 町 長
理 事	戸 田 衛	非常勤	六ヶ所村 村長
理 事	三 浦 正 名	非常勤	三八畜産衛生協議会 副会長（五戸町長）
理 事	福 島 弘 芳	非常勤	津軽地区家畜衛生推進協議会 会長（つがる市長）
理 事	小山田 富 弥	非常勤	(公社)青森県獣医師会 会長理事
理 事	佐々木 福 栄	非常勤	全国農業協同組合連合会青森県本部 運営委員
理 事	山 内 正 孝	非常勤	青森県畜産農業協同組合連合会 代表理事会長
理 事	布 施 久	非常勤	(一社)青森県養豚協会 会長理事
理 事	酒 井 一 由	非常勤	ゆうき青森農業協同組合 代表理事組合長
理 事	丸 井 幸 悦	非常勤	(一社)青森県配合飼料価格安定基金協会 専務理事
理 事	田 嶋 政 榮	非常勤	青森県農業共済組合連合会 理事
代表監事	白 戸 勝 一	非常勤	学識経験者（ごしょつがる農協 組合長）
監 事	澤 田 恵	非常勤	三戸畜産農業協同組合 代表理事組合長

II 事業別実績概要

一般会計

1 経営支援対策 (継続1)

1. 補助事業

(1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業 (機構補助・事業費 8,179,985円+835,299円)

肉用牛肥育経営の収益性が悪化した場合に、生産者の拠出と国の助成により造成した基金から、粗収益と生産費との差額の8割を補填することにより、肉用牛肥育経営の安定を図る制度で、肉用牛生産基盤の拡大に寄与するものである。

今年度は、交雑種や乳用種について粗収益が生産費を下回ったため、平成29年2月期(平成29年4月交付)から平成30年1月期(平成30年3月交付)において補填金の交付を行い経営の安定に資した。

① 対象家畜:

区 分	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
積立金取扱頭数	4,512 頭	6,122 頭	15,691 頭	26,325 頭

② 交付条件: 1頭当たりの生産費と粗収益との差額分の8割

③ 補填金の交付及び基金管理に要する事務

④ 事業推進委託等(事務委託先: 13団体)

⑤ 補填金の交付状況 (単位: 円)

区 分	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
平成29年2~3月期	0	30,614,900	210,589,500	241,204,400
平成29年4~30年1月期	0	268,003,900	470,518,800	738,522,700
計	0	298,618,800	681,108,300	979,727,100

⑥ 平成29年度 生産者積立金単価

区 分	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	備 考
1頭当たり積立金	24,000円	76,000円	88,000円	
生産者 (1/4)	6,000円	19,000円	22,000円	
機 構 (3/4)	18,000円	57,000円	66,000円	

(2) 地域畜産支援指導等体制強化事業 (地全協補助・事業費 7,794,000円)

畜産農家の安定的経営を目的に基幹職員を配置し、国及び県等の各種事業の推進による畜産指導を効果的に行う体制を整備強化した。

ア 畜産経営の支援体制強化 (内数で事業費 3,069,896円)

イ 地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供

ウ 馬事普及啓発の推進体制の強化

- (3) 堆肥利用ネットワーク推進事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 265,033円）
耕畜連携のもと、堆きゅう肥の利用促進を図るため普及啓発活動を実施した。
ア 相談窓口の設置 4件、畜産堆肥展示会 4回
イ ホームページによる情報提供 4回
- (4) 若手及び女性農業者支援体制強化事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 1,288,629円）
畜産をめぐる厳しい情勢に対応するため、女性や若手の経営意識を高め、地域一丸となって生産技術の向上に努める必要があることから、畜産に携わる女性や若手経営者を中心とした研修会等を開催し、生産技術の向上を図った。
ア 第15回モーモー母ちゃんの集い（H30.2.1 野辺地町）54名
イ 若手育成養豚経営勉強会（十和田市（2回）、八戸市（1回））24名
ウ 畜産に携わる女性の活躍を支援する地域のリーダー候補者の育成のため勉強会（2回、15名）の開催や県内や県外での交流会（4回、9名）へ参加して情報交流を図った。
- (5) 県産食肉普及拡大推進事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 839,357円）
県産食肉等（牛、鶏、ハチミツ）について、消費拡大及び普及啓蒙を図るため消費者等に向けたセールスプロモーション等を開催した。（5回）
ア 短角牛のPR活動：1回（青森市）
イ 青森シャモロックのPR活動：2回（青森市、六戸町）
ウ 県産はちみつへのPR活動：2回（青森市、八戸市）
エ 県産牛に係るPRポケットティッシュの配布：2,000個（仙台市）
- (6) 食育等の推進事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 475,182円）
消費者等を対象に県産畜産物を使った加工研修会及び食育教室を開催した。また、牛にふれあう酪農体験を実施した。
① 牛乳の試飲・酪農体験、1回、弘前市「弥生いこいの広場」来場者1,500名
② 手作りソーセージ教室（県産豚肉）、1回、青森市、参加者23名
③ チーズ作り教室（県産牛乳）、1回、東北町、参加者14名
- (7) 地域畜産振興事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 964,107円）
① 地域の畜産振興を図るため各地域の畜産共進会等に支援を行った。また、全国和牛能力共進会（仙台市）において、他県の出品牛の育成状況を視察した。
② 明日の酪農を担う後継者育成対策として、消費者への酪農体験や高校生や就業希望者を対象とした現地研修会等を開催した。
酪農体験学習（4回）、研修会・講習会の開催（8回）、酪農後継者育成会議の開催（1回）
- (8) 馬事活性化推進事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 891,796円）
地方競馬の活性化、畜産の普及啓発と県内畜産物の消費拡大を図るため、八戸サラブレッド市場、盛岡競馬及び水沢競馬場の開催に合わせ畜産フェアを開催し、県産畜産物を配布。
八戸市（7月4日）80個、盛岡市（10月7日）200個、水沢市（9月3日）200個

(9) 畜産特別資金等推進指導事業（中央畜産会補助・事業費 5,988,000円）

畜産特別資金が必要であると思慮される経営体の早期把握に努め、事業の適正かつ円滑な実施を図るため、融資機関及び借入者に対する必要な指導その他必要な支援を行った。

① 計画作成指導（貸付実行者 2戸（H29.5月）、現地指導 2戸）

② 改善計画見直し指導

資金名	借入者	経営分析による指導	現地指導
畜産経営維持緊急支援資金	4戸	4戸	4戸

③ 改善計画達成指導

資金名	借入者	経営分析による指導	現地指導	濃密指導
大家畜経営改善支援資金	0戸	0戸	0戸	0戸
大家畜経営活性化資金	1	0	1	0
畜産経営維持緊急支援資金	11	0	11	11
計	12	0	12	11

2. 受託事業

(1) 畜産経営支援指導体制確立事業（県委託・事業費 3,331,000円）

高度な技術を基盤とした生産性の高い畜産経営体を広範かつ急速に育成するため、畜産経営体の経営・生産技術の高度化に対する支援・指導を行い畜産の振興を図った。

① 畜産経営体支援指導研究会 1回

② 地域指導相談窓口の配置 3か所（青森市2か所、六ヶ所村）
相談件数 100件、セミナー等の開催8回

③ 畜産経営技術の総合支援個別支援 115件

④ ホームページによる情報提供 12回更新（家畜市場成績、県内畜産イベント情報等）

⑤ 畜産情報のデータベース蓄積と経営支援（巡回支援指導 5戸）

(2) 明日の酪農を担う後継者育成対策事業（県委託・事業費 2,069,091円）

酪農後継者を育成するために就農希望者等に県内の酪農情勢及び就農支援情報を提供するとともに、将来の担い手を育成するための児童・学生に酪農学習機会を広く提供し、酪農に関する理解醸成を図った。

① 酪農後継者育成会議の開催（1回、21名）

② ワーキンググループの開催（2回、5名）

③ 担い手育成相談所の設置、運営（通年）

④ 連携事例調査の実施（2回、北海道、岩手県）

⑤ 酪農学習機会の提供：酪農体験学習（4回）、研修会（7回）

(3) 畜産経営における女子力発揮推進事業（中央畜産会委託・事業費 1,308,569円）

畜産を核とした地域活性化には、畜産に携わる女性が活躍することが求められており、地域

のリーダー候補者の育成のため勉強会及び交流会を開催（参加）した。

勉強会 2回、交流会 3回

(4) 畜産現場における障がい者参画推進支援事業（中央畜産会委託・事業費 929,096円＋142,970円）

障がい者の畜産現場への就労参画を推進するため、畜産関係者と福祉関係者のマッチングをモデル的に行った。また、マッチングに向けた見学会や作業体験、農福連携シンポジウムを行った。

企画・実行委員会1回、畜産現場の見学会3回、畜産現場の作業体験2回、農福連携シンポジウム1回

(5) 畜産クラスター全国実態調査事業（中央畜産会委託・事業費 240,000円）

畜産クラスターの取組推進に係る経営体の指標作成のための調査を行った。（3戸）

(6) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター事業・機械導入事業）

（中央畜産会委託・事業費 4,968,816円）

畜産クラスター計画に位置づけられている地域の中心的な経営体に対し、収益力強化等に必要機械装置の導入支援を行った。

区 分	申請件数	うち承認件数	今後申請予定件数	備 考
平成29年第1回目	82件	82件	0件	
平成29年第2回目	83件	40件	34件	
計	165件	122件	34件	

平成29年度の補助金配分額	390,421,633円
（28年度・29年度合計の配分額）	1,011,425,633円
上記の事業を実施した県内の畜産クラスター協議会数	5 協議会

(7) 酪農経営体生産性向上緊急対策事業（楽酪事業）（中央畜産会委託・事業費 795,503円）

酪農を営む者における労働力軽減・省力化及び飼養管理技術の高度化に資する機械装置の導入支援を行った。

区 分	総事業費	国庫補助金	その他	備 考
楽酪応援会議推進事業	0	0	0	
機械装置導入事業	5,184,000	2,400,000	2,784,000	機械数量2
計	5,184,000	2,400,000	2,784,000	

(8) 貸付事業指導等事業（畜産近代化リース協会委託・事業費 413,538円）

畜産経営の近代化と体質強化を図るため、畜産関係機械施設のリース事業により整備したトラクター等飼料生産利用設備及び生乳生産合理化施設の利用状況調査・指導並びに新規開拓に係る調査を行った。

① 利用状況調査・指導：16戸、基数：27基

① 新規開拓調査：3団体

- (9) 草地難防除雑草駆除対策事業（日本草地畜産種子協会委託・事業費 400,574円+17,711円）
草地の生産性向上を図る上で課題となっている難防除雑草の駆除対策として農業者団体が難防除雑草の繁茂した生産性の低い草地から高位生産草地への転換を図るための支援を行った。
（調査分析：1/2以内、草地転換：上限17千円/10a）、
草地転換面積 35.4ha、事業参加戸数 9戸
- (10) 放牧活用高付加価値畜産物生産推進事業（日本草地畜産種子協会委託事業費 862,502円）
放牧畜産を推進するため、放牧に関する優良事例の調査、放牧推進上の課題の抽出と対応策の検討会を実施した。

3. 協会単独事業（自主事業）

- (1) 肉用牛肥育経営安定対策推進事業（事業費 5,298,800円）
肉用牛肥育経営安定対策事業の円滑な推進を図るために事務委託先14団体に対し、委託事務に要する経費等を助成した。
- (2) 畜産振興対策事業（事業費 329,060円）
- ① 広報事業
生産技術の普及向上のため、各地域の畜産共進会に副賞を授与した。また、「畜産協会だより」を2回（600部）発行し配布した。また、畜産PR用タオルハンカチを作成（500枚）配布して畜産のPRにつとめた。
- ② その他畜産振興に対する支援を行った。
- (3) 酪農経営改善指導事業（JAゆうき青森・事業費 223,292円）
効率的かつ安定的な酪農家の育成のため経営改善の支援指導を行った。

4. 馬事畜産振興対策事業

青森県馬事畜産振興協議会を通じて盛岡競馬場の観戦ツアーを開催した。
盛岡競馬場観戦ツアー（H29.10.15 岩手県盛岡市）95名

5. 養蜂対策事業

青森県養蜂協会の事務局として「はちみつ品評会」を開催し、はちみつの品質向上を図った。
はちみつ品評会 H29.10.17 青森市、出品数 50点

6. 平成29年度全国自給飼料生産コンクールの優良事例表彰

粃米サイレージを配合飼料の代替として利用することで、飼料費を大幅に低減し、安定した畜産経営を実現している、三戸町の「三戸地域稲SGS生産利用組合」を優良事例として、一般社団法人日本草地畜産種子協会に推薦したところ「日本草地畜産種子協会会長賞」を受賞した。

特別会計

1. 肉用牛肥育経営安定特別対策特別会計（事業費 979,727,100円）

肉用牛肥育経営安定特別対策事業の生産者積立金の徴収及び基金管理の適正な運営を図った。

平成29年度(4~3月)基金管理状況

平成30年3月31日現在

区 分		肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
期首残高		187,305,003	592,305,037	1,350,647,474	2,130,257,514
収 入	生産者積立金	29,604,000	122,204,000	356,682,000	508,490,000
	機構補助金	88,812,000	366,612,000	1,070,046,000	1,525,470,000
	肥育牛補填金返還額	0	0	0	0
	受取利息	1,997	5,939	13,789	21,725
	計	118,417,997	488,821,939	1,426,741,789	2,033,981,725
基金累計額		305,723,000	1,081,126,976	2,777,389,263	4,164,239,239
支 出	補填金交付額	0	298,618,800	681,108,300	979,727,100
	積立金返戻額	0	0	0	0
	計	0	298,618,800	681,108,300	979,727,100
基金残額		305,723,000	782,508,176	2,096,280,963	3,184,512,139

2 価格安定対策

1. 補給金事業

(1) 肉用子牛生産者補給金制度（機構補助・積立助成金 14,808,600 円、補てん金 0 円）

肉用子牛の再生産の確保と農業経営の安定を図るため肉用子牛の価格が低落し国の定める保証基準価格を下回った場合にその価格差を補てんする肉用子牛生産者補給金制度を実施した。

平成 29 年度は第 6 業務対象年間の 3 年目であったが、今年度も市場価格が高値で推移したため、全ての品種において生産者補給金の発動はなかった。子牛の個体登録頭数では、日本短角種を含むその他肉専用種のみ前年度より増加し、前年比 120%の 72 頭となった。他の品種は前年より 1 割程度減少したため、全体で前年比 95.2%の 8,928 頭となった。

① 生産者補給金交付契約締結状況

(単位：戸)

区分	個人	農協	農事組 合法人	株式 会社	有限 会社	市町村	その他	計
27 年度末	742	3	2	4	4	1	0	756
28 年度末	745	3	2	5	4	1	0	760
29 年度末	747	3	2	5	4	1	0	762

② 事務委託先契約締結状況

(単位：件)

区 分	総合農協	専門農協	そ の 他	計
27年度末	8	5	1	14
28年度末	8	5	1	14
29年度末	8	5	1	14

③ 契約肉用子牛個体登録頭数の内訳

(単位：頭)

区 分	黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用交雑種	計
継続	993	0	36	0	12	1,041
新規	2,922	0	36	3,042	1,887	7,887
計	3,915	0	72	3,042	1,899	8,928

④ 保証基準価格と合理化目標価格

(単位：円／頭)

品種区分	黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	乳交雑種
保証基準価格	339,000	309,000	221,000	136,000	210,000
合理化目標価格	282,000	259,000	150,000	93,000	152,000

⑤ 肉用子牛1頭当たりの生産者積立金及び負担区分

(単位：円)

品種区分	生産者積立金	負担区分		
		農畜産業振興機構	青森県	生産者
黒毛和種	1,200	600	300	300
褐毛和種	4,600	2,300	1,150	1,150
その他肉専用種	12,400	6,200	3,100	3,100
乳用種	6,400	3,200	1,600	1,600
乳交雑種	2,400	1,200	600	600

⑥ 生産者積立金造成内訳

(単位：頭、円)

品 種		個体登録頭数	積立金単価	積立金所要額	負担区分		
					機構(1/2)	青森県(1/4)	生産者(1/4)
黒毛和牛	継続	993	1,200	—	—	—	297,900
	新規	2,922	1,200	—	—	—	876,600
	計	3,915	—	4,698,000	2,349,000	1,174,500	1,174,500
褐毛和種	継続	0	4,600	—	—	—	0
	新規	0	4,600	—	—	—	0
	計	0	—	—	—	—	0
その他肉専用種	継続	36	12,400	—	—	—	111,600
	新規	36	12,400	—	—	—	111,600
	計	72	—	892,800	446,400	223,200	223,200
乳用種	継続	0	6,400	—	—	—	0
	新規	3,042	6,400	—	—	—	4,867,200
	計	3,042	—	19,468,800	9,734,400	4,867,200	4,867,200
乳用交雑種	継続	12	2,400	—	—	—	7,200
	新規	1,887	2,400	—	—	—	1,132,200
	計	1,899	—	4,557,600	2,278,800	1,139,400	1,139,400
合 計	継続	1,041	—	—	—	—	416,700
	新規	7,887	—	—	—	—	6,987,600
	計	8,928	—	29,617,200	14,808,600	7,404,300	7,404,300

(注) 個体登録頭数は平成29年1月～12月分

⑦ 生産者積立金及び生産者積立準備金管理状況

(単位：円)

区分		保証基準価格の品種区分	黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	乳用交雑種	合計	
1 期首 残高	①生産者積立金		11,648,815	0	3,188,308	52,530,379	13,876,011	81,243,513	
	②生産者積立準備金		—	—	—	—	—	130,710,376	
	内訳	③生産者の負担金充当分	—	—	—	—	—	14,389,811	
		④県の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	116,320,565	
		⑤機構の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	0	
2 生産者積立金積立実績	⑥生産者積立金純増加額(⑨+⑫+⑮+⑱)		3,225,600	0	558,000	14,601,600	3,411,000	21,796,200	
	⑦生産者積立準備金からの繰入額(⑩+⑬+⑯)		1,472,400	0	334,800	4,867,200	1,146,600	7,821,000	
	⑧計		4,698,000	0	892,800	19,468,800	4,557,600	29,617,200	
	内	生産者	⑨負担金	876,600	0	111,600	4,867,200	1,132,200	6,987,600
			⑩生産者積立準備金(③からの繰入額)	297,900	0	111,600	0	7,200	416,700
			⑪(小計)	1,174,500	0	223,200	4,867,200	1,139,400	7,404,300
	県	⑫生産者積立助成金	0	0	0	0	0	0	
		⑬生産者積立準備金(④からの繰入額)	1,174,500	0	223,200	4,867,200	1,139,400	7,404,300	
		⑭(小計)	1,174,500	0	223,200	4,867,200	1,139,400	7,404,300	
	訳	機構	⑮生産者積立助成金	2,349,000	0	446,400	9,734,400	2,278,800	14,808,600
			⑯生産者積立準備金(⑤からの繰入額)	0	0	0	0	0	0
			⑰(小計)	2,349,000	0	446,400	9,734,400	2,278,800	14,808,600
	その他	⑱生産者積立金とすることを指定して寄附又は補助された財産	0	0	0	0	0	0	
	3 他の資産からの繰入状況等	⑲特別の積立金から生産者積立金への繰入額		0	0	0	0	0	0
		⑳調整積立金から生産者積立金への繰入額		0	0	0	0	0	0
㉑交付した補給金の生産者からの返還額		0	0	0	256,550	0	256,550		
㉒生産者補給金に充てるための全国協会等からの借入金額		0	0	0	0	0	0		
㉓生産者積立金に係る運用果実		13,413	0	2,621	60,503	15,978	92,515		
㉔生産者積立準備金に係る運用果実		—	—	—	—	—	205,521		
㉕生産者補給金交付額(㉑を含む)		0	0	0	0	0	0		
㉖生産者積立金からの借入金返済額		0	0	0	0	0	0		
㉗生産者積立金から生産者積立準備金への繰入額		0	0	0	0	0	0		
㉘特別の積立金から生産者積立準備金への繰入額		—	—	—	—	—	256,550		
㉙生産者積立準備金からの返還額(生産者分)		—	—	—	—	—	66,286		
㉚生産者積立準備金からの返還額(県分)		—	—	—	—	—	0		
㉛生産者積立準備金からの返還額(機構分)		—	—	—	—	—	0		
4 期末 残高	㉜生産者積立金(①+⑧+⑲+⑳+㉑+㉒+㉓+㉕+㉖+㉗)		16,360,228	0	4,083,729	72,316,232	18,449,589	111,209,778	
	㉝生産者積立準備金(②+⑦+㉔+㉘+㉙+㉚+㉛+㉜)		—	—	—	—	—	123,285,161	
	内訳	㉞生産者の負担金充当分	—	—	—	—	—	13,906,941	
		㉟県の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	109,378,220	
㊱機構の生産者積立助成金充当分		—	—	—	—	—	0		

⑧ 特別の積立金管理状況

(単位：円)

区 分		黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用交雑種	合計
期首残高					0		0
増 加	特別納付金				0		0
	受入利息				0		0
	生産者補給金返還金				256,550		256,550
	小計				256,550		256,550
減 少	普通財産へ繰入				0		0
	生産者積立準備金へ繰入				256,550		256,550
	小計				256,550		256,550
期末残高					0		0

⑨ 償還円滑化積立金管理状況

(単位：円)

区 分		黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用交雑種	合計
期首残高			128,100		288,573	8,990,153	9,406,826
増 加	生産者積立準備金より繰入		0		0	0	0
	受入利息		238		537	16,749	17,524
	小計		238		537	16,749	17,524
減 少	機構へ償還		0		0	0	0
	全国協会へ償還		0		0	0	0
	小計		0		0	0	0
期末残高			128,338		289,110	9,006,902	9,424,350

⑩ 生産者補給交付金交付状況

(単位：頭、円、人)

区分	保証基準価格の 品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用 交雑種	合計
平成 29 年	交付対象 頭数①	販 売						0
		保 留						0
		合 計						0
1 月 1 日 ～ 12 月 31 日	②生産者補給金単価							—
	③生産者補給金交付額							0
	(①×②)	不足払部分						0
		積立部分						0
	交付対象生産者数							0

2. 補助事業

(1) 肉用牛繁殖経営支援事業（機構補助・事業費 1,465,921円）

- ① 事業内容：肉用子牛の四半期毎の平均売買価格が発動基準を下回った場合、当該四半期に販売又は自家保留された肉用子牛を対象として、発動基準を下回った額の4分の3を交付した。
- ② 発動基準

区 分	黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種
平成29年度	460,000円	420,000円	300,000円

③ 交付状況

(単位：円)

区 分	黒毛和種		褐毛和種		その他肉専用種		合 計	
	頭数	金 額	頭数	金 額	頭数	金 額	頭数	金 額
H28第4四半期	—	—	—	—	—	—		
第1四半期	—	—	—	—	—	—		
第2四半期	—	—	—	—	19	1,018,400	19	1,018,400
第3四半期	—	—	—	—	7	324,100	7	324,100
計	—	—	—	—	26	1,342,500	26	1,342,500

(2) 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業（機構補助）

① 肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業（事業費 8,895,332円）

ア 制度運営適正化推進

肉用子牛生産者補給金制度に係る業務の適正な実施を図るため、肉用子牛の個体識別、個体登録及び販売・保留・異動の確認等事務推進に努めた。また、家畜市場における肉用子牛の取引情報を収集し、独立行政法人農畜産業振興機構へ報告を行った。

イ 指定協会調査指導

協会の業務規程に基づき、協会が事務を委託する者が行う委託事務の執行についての点検、調査及び指導を実施し、肉用子牛生産者補給金制度の適正な実施体制の確保に努めた。

② 指定協会運営体制支援事業（事業費 4,840,564円）

肉用子牛生産者補給金制度の業務を円滑に遂行するため、協会の運営体制の充実を図った。

(3) 肉用牛経営安定対策補完事業（機構補助・事業費 16,636,494円）

肉用牛生産が中山間地域の基幹的な農業部門のひとつとして、地域経済の活性化に重要な役割を果たしていることを踏まえ、高齢化等に対処する肉用牛ヘルパー組織への支援、地域の特色ある肉用牛振興対策等を実施し、多様な肉用牛経営の実現を図った。

① 中核的担い手育成増頭推進（補助単価：80,000円、100,000円）

計画的に高能力の肉専用種繁殖雌牛を増頭した者への奨励金の交付
(37戸、78頭、7,480,000円)

- ② 優良繁殖雌牛導入支援（補助単価：40,000円、50,000円）
優良な繁殖雌牛を導入し繁殖農家に貸し付けた場合の奨励金の交付
（15戸、18頭、900,000円）
- ③ 肉用牛ヘルパー推進（補助率：1/2）
肉用牛ヘルパー利用組合が実施した活動経費に対する補助（2団体 4,585,149円）
- ④ 地方特定品種等の振興（補助率：1/2）
日本短角種等地方特定品種の低コスト生産を行うために必要な放牧地の整備等に対する補助
（1団体 1,133,250円）
- ⑤ 山振地域における肉用牛振興（補助単価：1,500円）
山振地域在住生産者に対する優良子牛の適正出荷奨励金の交付（200頭、300,000円）
- ⑥ 肉用牛振興推進指導
推進会議等の開催、事業推進指導の実施（2,238,095円）

3. 受託事業

- (1) 養豚経営安定対策推進事業（機構委託・事業費 374,131円）

全国の豚枝肉卸売平均価格が生産コストに相当する保証基準価格を下回った場合、その差額の8割を補填することにより、養豚経営の安定と豚肉の安定供給を図る事業である。

本年度は、(独)農畜産業振興機構の委託を受け、事業実施主体となる養豚生産者及び関係団体への事業説明会を開催したほか、事業内容の問い合わせに対応した。

また、1戸の養豚生産者と申請事務等委託契約を締結し、生産者が(独)農畜産業振興機構へ提出する書類の作成代行等の事務を行った。

- ① 対象肉豚：全規格の肉豚（全廃棄・自家消費豚は除く）
- ② 生産者積立金：1,400円/頭（うち生産者負担額700円）
- ③ 補填金単価：平均粗収益が平均生産コストを下回った場合、その差額の8割を補填

4. 肉用子牛生産者補給金の不正受給について

平成18年度に確認された不正受給については、平成30年2月2日、青森地方裁判所十和田支部において当該生産者との和解が成立し、独立行政法人農畜産業振興機構への補助金返還等全ての処理が完了した。

3 家畜衛生対策（継続2）

1. 補助事業

(1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業（国補助・事業費 4,710,591円）

症状が明確でない慢性的な伝染性疾患の増加に加え、清浄化が困難な伝染性疾患の発生がみられることから、生産者サイドでの自主的・組織的な取組により疾病の清浄化及び発生・流行防止対策を推進し、損耗防止を図った。

① ヨーネ病早期清浄化のための自主淘汰の推進

患畜同居牛の自主淘汰促進： 淘汰奨励費交付頭数 9頭（9戸）

② 牛白血病(EBL)の感染拡大の防止の推進

・抗体検査：89 頭

・放牧場等対策：アブトラップ等 3 牧場 7 台、忌避剤 6 牧場、アブジャケット 2 農場、ペルネット 1 農場

③ 牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)対策

・講習会：1 回（H29.7.26 東北町）

・講演内容・講師：

「牛ウイルス性下痢・粘膜病持続感染牛摘発農場の清浄化に向けた取組」について
三八地域県民局地域農林水産部 八戸家畜保健衛生所 主査 方波見 将人 氏

「牛呼吸器症候群の新しい治療法」について

ゾエテイス・ジャパン株式会社 テクニカルサービスマネージャー 米山 修 氏

④ 農場飼養衛生管理強化対策（指定獣医師3名、農場指導 70戸）

(2) 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（国補助・事業費 9,107,693 円）

牛海綿状脳症(BSE)の浸潤状況をより正確に把握し、BSE の防疫対策を検証するため、「牛海綿状脳症対策特別措置法」に基づき、48 月齢以上の死亡牛の検査と適正処理の推進を図った。

死亡牛の管理促進費、輸送促進費及び化製処理費の補助： 48 月齢以上 700 頭

(3) 獣医師養成確保修学資金貸与事業（国補助・事業費 7,666,083 円）

本県の家畜防疫体制の強化を図るため、本事業の普及啓発を図り、獣医師養成確保修学資金を貸与した。

① 修学資金貸与者：5名

② 共同負担者：青森県（3名）、青森県農業共済組合連合会（2名）

(4) 豚丹毒予防接種向上対策事業（市町村補助・事業費 50,415円）

豚丹毒の発生を防止することにより養豚産業の安定的な発展を図るため、本会が行う豚丹毒予防接種向上対策事業に要する経費の一部に対し、関係市町村が本会を経由して生産者に補助金を交付した。

① 実施市町村： 七戸町、六戸町

② 補助対象頭数： 3,361頭（1 頭当り15円）

(5) 家畜防疫互助基金支援事業（機構補助・事業費 1,296,406円）

豚コレラ及び口蹄疫等の海外悪性伝染病が発生した場合、畜産経営への影響を緩和するため、飼養する豚及び牛の淘汰に伴う損失を生産者等が互助補償する仕組みへの加入推進を図った。

- ① 対象伝染病：口蹄疫、牛疫、牛肺疫、アフリカ豚コレラ、豚コレラ
- ② 互助金交付：1)法に基づき殺処分した家畜を飼養していた農場が新たに家畜を導入した費用
2)殺処分又は自主淘汰した家畜の評価額及び焼却・埋却費用
- ③ 契約締結状況：(29年度末)

区 分	契約戸数	契約頭数	積立金額	うち29年度の契約
牛	836	69,653	9,463,275	6戸、660頭、107,900円
豚	34	298,021	12,439,420	
計	870	367,674	21,902,695	

(6) 衛生体制強化基金事業（中央畜産会補助・事業費 53,000円）

家畜伝染病予防接種推進対策事業の効率的な実施に必要な研修会を開催した。

生産者及び指定獣医師等を対象とした畜産技術研修会の開催： 1回

(7) 育成馬等予防接種推進事業（中央畜産会補助・事業費 1,177,822円）

軽種馬生産地における伝染性疾患の発生流行防止のため、育成馬の予防接種の徹底を図った。

- ① 馬インフルエンザ、馬流行性脳炎、破傷風（3種混合）予防接種 290頭
- ② 馬インフルエンザ予防接種 32頭
- ③ 馬日本脳炎予防接種 5頭

2. 受託事業

(1) 馬飼養衛生管理特別対策事業（中央畜産会委託・事業費 850,793円）

馬の生産、流通の広域化等により伝染性疾患の侵入、流行の危険性も大きいことから、競走馬以外の馬の飼養衛生に関する講習会の開催、基礎調査等を実施し馬衛生管理の向上を図った。

- ① 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会開催： 1回（H29.8.9 十和田市）
- ② 馬飼養衛生管理技術地方講習会開催： 1回（H29.12.21 八戸市）
講師：麻布大学獣医学部外科学第二研究室 石原 章和 氏
講演：「馬の飼養管理と疾病予防対策」について
- ③ 馬獣医療実態調査： 7戸
- ④ 馬飼養衛生基礎技術実習：1回（H29.10.16 東北町）

講師：十和田家畜保健衛生所 角田 公子 氏
講演：「鹿児島大学付属動物病院での実習内容」について
講師：イチャマホースクリニック 一山 雄二郎 氏
臨床実習：「育成馬のデンタルケア」について

(2) 農場HACCP認証支援地域強化促進事業（中央畜産会委託・事業費 2,741,208円）

農場HACCPに取り組む農場に対して、専門家による農場HACCPの構築指導を行い、

地域に農場HACCP取組の中核となる農家への支援を行った。

- ① 農場指導： 2戸（肉用牛 1、養豚 1）
- ② 普及推進協議会： 2回、地域取組活動： 2回、意見交換会： 1回

(3) 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（中央畜産会委託・事業費 3,136,968円）

乗用馬・農用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種及び軽種馬の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種の推進並びに感染症対策の普及啓発の検討を行った。

- ① 検討会の開催： 1回
- ② 馬インフルエンザ予防接種： 142頭（農用馬 128頭、その他関連馬 14頭）
- ③ 馬鼻肺炎予防接種： 197頭

(4) 自衛防疫体制強化推進事業（家畜衛生対策推進協議会委託・事業費 4,297,950円）

生産段階での防疫演習等の実施、特定悪性慢性感染症の清浄化の推進、これら防疫措置の基礎となる家畜の飼養衛生管理基準の徹底、啓発を行った。

- ① 検討会の開催： 2回
- ② 防疫演習開催： 5地区実施
- ③ 牛白血病(EBL)対策モデル型中核農場構築モデル： 5農場

(5) 飼養衛生管理基準等啓発普及促進事業（中央畜産会委託・事業費 816,704円）

「飼養衛生管理基準」の改正後の情報を関係者に迅速に周知・徹底し、不測の事態に備えた防疫体制の強化、推進を図った。

- ① 委員会の開催：1回
- ③ 説明会の開催：6回（肉用牛 4回、豚 1回、馬 1回）

(6) 牛せき柱適正管理等推進事業（日本畜産副産物協会委託・事業費 360,167円）

牛海綿状脳症(BSE)発生により途絶えた、畜産リサイクルシステムの機能の回復と豚肉骨粉等の飼料利用を推進するため、食肉業者と化製業者が原料の引渡し・引受け段階において牛原料を含まない原料供給の促進を図った。 契約業者数： 3業者

3. 協会単独事業（自主事業）

(1) 自衛防疫強化対策事業（事業費 518,362円）

最近における家畜の飼養衛生の実態を踏まえ、自衛防疫体制の確立と自衛防疫事業の効率的な推進を図った。

- ① 事業推進会議 運営協議会 1回（H30.2.13 青森市）
県推進会議 1回（H29.5.31 青森市）、地域推進会議 5か所

(2) 自主防疫推進事業（予防接種事業）（事業費 51,281,574円）

家畜伝染病の発生・流行の防止のため、国・県の指導のもとに、生産者・市町村関係団体及び地区家畜衛生推進協議会による防疫体制の強化を図りながら、指定獣医師による家畜伝染病予防接種事業の円滑な推進を図った。

○予防接種事業の種類・実績

(単位：頭、羽)

種 類		実績数	種 類		実績数
牛	牛 ア カ バ ネ 病	7,391	豚	豚 丹 毒 (生50ml)	22,642
	牛伝染性鼻気管炎(5種)	5,312		豚 丹 毒 (不・オイル)	6,000
	牛伝染性鼻気管炎(6種)	404		豚 流 行 性 脳 炎	940
	牛IBR(5種)・ヘモフィルス(混)5Hs	6,782	馬	馬インフル・流脳・破傷風(混)	123
	牛クロストリジウム(3種)	6,396		馬 インフルエンザ	14
	牛クロストリジウム(5種)	72		馬 流 行 性 脳 炎	38
	牛ヘモフィルス感染症	632		馬 鼻 肺 炎	0
	牛 下 痢 (5種混合)	120	鶏	ニューカッスル病 (ND)	65,000
豚 豚 丹 毒 (生20ml)	16,996	ニューカッスル病・IB(混)		51,000	

(3) 総合指導事業 (事業費 556,026円)

家畜の疾病が複雑多様化していることから、地域で抱えている家畜衛生対策の課題解決に必要な事業への助成並びに指定獣医師の技術向上等を図った。

① 家畜防疫地域活性化促進事業 2地区実施

(東青地区) 産業動物獣医療安定確保対策事業

獣医師の定期的な肉用牛飼養農家への巡回により、治療・繁殖検査等の診療機会の増加化を図った。

(むつ地区) ミルキングシステム点検事業

正しい搾乳技術とミルキングシステムの点検を促進し、乳質の向上と乳房炎の発生を予防し、もって酪農経営の安定を図った。 11戸

② 研修・広報事業

ア 地区研修会等開催状況 開催協議会： 5地区、開催回数：5回

③ 家畜衛生功労者表彰

ア 表彰規程第2条第1項 (生産者等)： 2名

イ 表彰規程第2条第2項 (指導者等)： 2名

(4) 自衛防疫指導事業 (事業費 3,783,000円)

地区家畜衛生推進協議会が行う自衛防疫関連事業及び研修広報事業等について、寄託金を財源として事業の円滑な推進を図った。(東青、三八、上十三、むつ、津軽)

(5) 家畜防疫互助推進事業 (事業費 279,142円)

家畜防疫互助基金造成等支援事業の推進を補完した。

(6) 死亡牛処理管理促進事業 (事業費 168,279円)

死亡牛処理に係る産業廃棄物処理票 (マニフェスト) の保管・管理等の適正化を促進することにより、死亡牛処理の円滑な推進を図った。(取扱い頭数 2,465頭)

特別会計

1. 牛の検査材料保冷施設特別会計（事業費 5,920,700円）

(1) 牛海綿状脳症対策特別措置法に基づく、48月齢以上のすべての死亡牛を管理するため、県が設置した「牛の検査材料保冷施設」の管理委託を受け運営した。

- ① 設置場所： 野辺地町（畜産研究所内）
- ② 年間取扱頭数： 715頭

(2) 牛海綿状脳症清浄化推進対策事業（県委託・(1)の内数で事業費 1,287,201円）

牛の検査材料保冷施設における死亡牛の牛海綿状脳症(BSE)検査に係る採材補助業務を行い、当該検査の円滑な推進を図った。

【平成29年度末で管理受託を終了】

平成30年3月31日をもちまして、当協会の「牛の検査材料保冷施設」の管理運営は終了しました。これまでの御支援に対し感謝を申し上げます。

付 表

(1) 自主防疫推進事業実績（平成29年度）

① 家畜伝染病予防接種実績頭数

(単位：円/頭・羽)

区 分		29年度 計画頭数	実績頭数 合 計	地区別実績頭数				
				東 青	三 八	上十三	む つ	津 軽
(1) 補助事業								
馬	馬インフル・流脳・破傷風(混)	335	290		243	47	2	
	馬インフルエンザ	50	32		20	10		
	馬流行性脳炎	15	5		5			
	馬鼻肺炎(不)	150	35		35			
	馬鼻肺炎(生)	40	162		123	39		
	馬インフルエンザ(自衛)	145	142	10	81	46	5	
(2) 協会事業								
豚	豚丹毒(生20ml)	16,600	16,996		928	13,335		2,733
	豚丹毒(生50ml)	25,000	22,642		9,496	13,146		
	豚丹毒(不・オイル)	6,000	6,000		6,000			
	豚流行性脳炎	900	940			940		
牛	牛アカバネ病	7,200	7,391	196	1,632	3,638	1,352	573
	牛伝染性鼻気管炎(5種)	5,300	5,312	153	355	4,236	568	
	牛伝染性鼻気管炎(6種)	50	404	103	22	52	227	
	牛伝染性鼻気管炎(5種)・ 牛ヘモフィルス(混合) 5Hs	5,760	6,782	131	1,812	2,951	1,142	746
	牛クロストリジウム(3種)	6,330	6,396	238	900	3,136	1,580	542
	牛クロストリジウム(5種)	80	72				72	
	牛ヘモフィルス感染症	900	632		170		462	
	牛下痢(5種混合)	85	120	83	18			19
馬	馬インフル・流脳・破傷風(混)	130	123	15	94	9	5	
	馬インフルエンザ	10	14		13	1		
	馬流行性脳炎	25	38	10	14	9	5	
	馬鼻肺炎	0	0					
鶏	ニューカッスル病(ND)	55,000	65,000	2,000				63,000
	ニューカッスル病・IB(混)	41,000	51,000					51,000